

BUSINESS FOR GOD'S GLORY



「富とは何か？」

米村 英二師

「人生のあらゆる分野がミニストリー」

ジェイムス・アーサー師

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン聖書学院

2025年10月・11号 NO.196

「仕事と人生」(生きる意味を求めて)

「富とは何か？」

米村 英二 師



米村英二師

学院顧問・熊本県大津キリスト教会牧師

1. 富とは何か？

富とは何か？富については、相反する2つの見方があるように思われます。

1つは、神と対抗して私たちの上に力をふるい、私たちを神の意志と反対の方向に引きずってゆこうとする魔性的力を持ったものとして意識される富です。

いま1つは、それとはまったく反対で、神が人間の必要のために造り、与え、その支配をわれわれ人間にゆだねられた、良い物としてとらえられている富です。米や麦などの農作物が豊かに生産されるとき、私たちはそれを、神からの祝福として受け取ることでしょう。しかし富が増し、物が豊かになってくると、いつのまにかそれが私たちの心を占領し、人生を狂わせてしまう。そういう力を持つものとして、私たちが富を警戒することがあるのも事実です。富そのものの

中に、さまざまな道徳的退廃を生み出す力が潜んでいるように思われるのです。

「金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました」(1テモテ6章10節)と聖書が警告するのは、そういう方面の危惧からでしょう。とくに富が貨幣という形をとったとき、私たちはいつそうその感を深くします。

イギリスの説教者ジョン・ウェスレーも、富の持つ力について戸惑いを感じた人でした。彼は教会の指導者として、信徒に勤勉で質素な生活をするように勧めました。ところが人びとが勤勉に働き、質素な生活をすれば、その結果、彼らはどうしても経済的に豊かになる。豊かになると、快適な生活に安住し、しだいに彼らの心から宗教的情熱が失われ、信仰が形だけのものになってゆく。繰り返されるこのような宗教

の腐敗を防ぐ道はないものかとウェスレーは悩んだのです。それにもかかわらず、当時のクリスチャンたちは、富が、何か悪いものであるとは思っていませんでした。聖書は、むしろ不正の富を用いて、友を得よと言っています。五タラント預かった者が、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけて帰ってくると、主人は「よくやった。良い忠実なしもべだ」と言って彼をほめています。もし金銭が正しい方法で得られ、また正しく用いられるならば、それは人類にとって大きな祝福であると彼らは考えたのです。彼らが金銭を軽んじないで、むしろ積極的な価値をそれにおいたのは、彼らの労働観によるものと思われます。

たとえば金銭はどのように得られるかと言えば、その方法は次の3つです。「盗む」か、「貰う」か、「稼ぐ」かです。当然のことながら、彼らは、金銭獲得のもっとも正しい道は、稼ぐことであると考えたでしょう。彼らが金銭を尊んだのは、それが誠実な労働の結果であったからです。

少年の頃、リンカーンは、オハイオ川で渡守の仕事に雇われ、ある人を蒸気船まで送ってあげたことがあります。その報酬として初めて五十セント銀貨をもらうと、彼の喜びは例えようもなく、何回かその銀貨を空に向かって打ち上げ、「これは神が私に与えた金だ！」と大声で叫んだといひます。札幌農学校の校長クラークが、「農業の目的は何か？」と学生たちに質問したとき、ある学生は、「国を強くするためです。」と答え、別の学生は、「国民の独立心を養うためです。」と答えました。その他いくつもの答えが出たのですが、クラークはなかなか首を縦に振りません。そこで彼らが、「それでは、先生は、何が農業の目的だと思われますか。」と問うと、クラークは笑いながら、こう答えたというのです。「農業の目的は、金を得ることです。」学生たちは、一瞬、沈黙してしまいました。

クラークが教えたかったのは、第1に「労働の大切」さです。次に、「労働に対して正当な報酬」を受けるのは当然で、少しもそれを恥じる必要

はないのだということであったでしょう。当時のクリスチャンたちは、労働の結果として得られる金銭の用途についても、高い目的を持っていました。「あなたはどのように金がほしいのか？」と問われて、イギリスの文豪カーライルは、「卑しい人より、卑しい取り扱いを受けないためである。」と答え、内村鑑三は同じ質問に対して、「独立のためである。人たるの威厳を維持するためである。これ以外のためには、われらは金は一文もほしくない」と答えています。

以上、述べてきたことから、キリスト教が、労働や金銭について、ある特別な思想を持っていることがわかりいただけたと思います。彼らは、金銭を卑しめることも、またそれに支配されることもなく、むしろ積極的にその用法を学ぼうとしていたのではないのでしょうか。

2. バックストンの教訓

明治の中頃に来日し、松江で伝道したバックストンは、イギリスの貴族であり、かつ敬虔な聖徒でしたが、自分の資産を投じて聖書塾を開き、全国からやってくる多くの青年たちを訓育しました。彼の惜しみない援助は、霊的方面だけでなく物的方面にも及び、そのためそこで学ぶ若者たちはまったく衣食住から解放され、ひたすら勉学と祈りに励むことができたといひます。これを成し遂げたバックストンの能力もさることながら、その背後にあって、彼の働きを支えた母国イギリスのバックストーン一族の財的援助は膨大なものだったろうと想像されます。けれども、そうやって彼のもとで訓練を受けた青年たちは、その後、日本各地で伝道を展開し、今日、大きく飛躍した福音派と呼ばれるグループの基礎をつくることになるのです。まさにバックストンの聖書塾は、日本における純福音運動の指導者養成所であったといひことができるでしょう。

その教育の途上、一時帰国したバックストンは、イギリスからそれらの弟子たちに手紙を書き送り、その中で生活のすべての分野にわたる

こまかな忠告を与えています。たとえば時間の使い方については、朝は6時を過ぎて、まだ床にいたような者があってはならないこと、1日を始める前に少なくとも1時間は聖書を読み、祈り、神とともに過ごすこと、午前中の三時間は勉強に費やし、読んだら必ずノートを取ること、午後はできるだけ訪問に時間を使うべきであるが、決して長居はせず、帰るときには祈ること、夜、集会のあとは明日に備え、早く休むことなどを基本的な生活習慣とするように勧めているのです。

金銭の使用法についてもかなりのページを費やし、金銭は人を生かすもするし、墮落もさせる。金銭をどう使うかは、そのままその人の人柄をあらわすものであるから、その扱い方にはよくよく注意をはらわねばならない、と忠告を与えたあと、ジョン・ウェスレーの有名な説教から、金銭に関する次の三つの原則を紹介しています。

第1、できるだけ得よ。

第2、できるだけ蓄えよ。

第3、できるだけ与えよ。

第2の「できるだけ蓄えよ」については説明を加え、必ず来る将来の必要のために蓄えをしている人があれば、その人は信仰が少ないのではなく、むしろ強い克己心をもっているのである。節制のない人は、得るだけをみんな使ってしまうだろう。しかし一定の主義に基づいて生活する人は、現在の必要のためにはこれだけ、将来のためにはこれだけと定めている。そして現在、よほど苦しく感じて、彼は嚴重にそれを守ることだろう。もしそのような方針を定めていないなら、そのときの誘いに負けて、将来のために蓄えておくべきものを、現在に浪費してしまうかもしれない。一家の家長でありながら、家族のだれかが病気の場合とか、子どもの教育のためとかに、なんら準備をしていない人があるとすると、その人は神の前に罪を犯しているのである、と語り、「**自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです**」(1テモテ 5章8節)とい

うパウロの言葉を引用しています。

更に第3の「与えること」については「10人の信者があって、みなが十一献金をする」とすれば、自分たちの牧師を支えることができます。牧師は10人の信者の平均の収入を得られるからであります。これは現に日本よりずっと貧しい人々の間でなされていることです」と述べています。金銭の扱い方について、これほどまでに具体的で、しかも懇切丁寧な指導を若い伝道者に行なったのは、金銭問題が、その人の人格や信仰、道徳と深い関係があることをバックストン自身が確信していたからではないでしょうか。

3. 二宮尊徳の経済倫理

最近私は「二宮翁夜話」という本を手にししました。初めて二宮尊徳の思想にふれ、いろいろと考えさせられています。二宮金次郎というと、戦前は、薪を背負って歩きながら勉強をしている銅像で知られ、日本中どこへ行ってもその像のない小学校はないほどでした。勤勉で親孝行な子どもになるようにと、戦前の道德教育のお手本にされ、どちらかというと国策に利用されたきらいがあります。その反動もあってか、彼の本は最近あまり読まれていません。またその銅像の印象が強いため、人びとの心に残っている金次郎はいつまでたっても少年のままなのです。しかし二宮の真価は彼の少年時代の物語ではなく、彼のその後の事業にあると思われます。二宮の本を読みながら、私がまず驚いたのは、「報徳の思想」として知られる彼の経済倫理が、まさに宗教改革後、プロテスタントの人びとのあいだに深く浸透していった経済倫理ときわめてよく似ている点です。たとえば、ジョン・ウェスレーが、「できるだけ得よ」「できるだけ蓄えよ」「できるだけ与えよ」と語った三つの原則を、二宮は「勤、儉、譲」という三つの言葉で表現しています。「勤」とは勤労、「儉」とは儉約、「譲」とは譲ることです。

金銭の目的は、人間としての誇りと独立のためであるとカーライルは言いましたが、二宮もまた、貧困にあえぎ、打ちひしがれている農民

たちに、人間としての誇りと独立心を与える道はないかと考えました。そしてこう思ったのです。「そういえば自分自身が、かつては両親を失い、家を失い、今、目の前にいる農民たちと同じような境遇にいたのではないか。それが、今では、その境遇をきりぬけ、衣食住に関するかぎり、何不足ない身分となっている。農民を救う道は、まさに自分の歩いてきた道にあると言えないだろうか。」こうして考え出されたのが、「勤・儉・譲」という彼自身が実践してきた道徳的な経済生活だったのです。これは、二宮が発見したもので、人がいかにして経済的に自立し、自由な人間となり、さらに進んで社会に貢献できる存在となり得るかの、普遍的な原理であると言ってよいかもしれません。

4. 勤・儉・譲の思想

第1の「勤」とは、勤勉に働くことです。二宮は、いちかばちかの投機的経済をきらい、堅実な労働を重んじました。その労働原理は「おおよそ小を積みて大を致すは自然の道なり」という彼の言葉にもっともよく表わされています。大事をなそうと思ったら、小さいことを怠らずに勤めよ、小が積もって大となるからだというのが、彼の終生の人生観でした。

今のトヨタの創業者で、自動織機の発明者として知られる豊田佐吉は二宮の思想に深い影響を受けた人で、若い頃にこんなことを言っています。「自分には才もなく、口をきくことも下手である。それゆえひたすら誠で押してゆくよりほかはない。誠には上を越すものがないので、常に心も安らかである」これも積小為大の思想の実践だと言ってよいでしょう。「二宮翁夜話」には、こんな話もあります。

二宮が若い頃、初めて家を持った時のことです。鍬が壊れて仕事ができなくなり、隣家の老人のところへ行って、鍬を貸してくれないかと頼みます。ところが、「今この畑を耕して菜を蒔こうとしているところだ。蒔きおえるまで貸すわけにはゆかない」とすげなく断られる。

二宮は、自分の家に帰ったところで、鍬がなくしては、する仕事ありません。そこで彼はもう一度隣家へ行き、こう言うのです。「ではこの畑を耕してあげましょう。菜の種も出してください。ついでにそれも蒔いてあげましょう」そう言って、耕したうえに種を蒔いてあげ、そのあとで鍬を借りると、その老人は、初めの態度とは打って変わって、こう言ったのです。「鍬だけでなく、何でも困ることがあったら、遠慮なく申し出なさい。きっと用立てましょう」

これから独立しようとする彼の甥、民次郎にこの話をしたあと、二宮は言いました。「このように自分のほうから一歩進んでやれば、いつでも道は開けるものです」こんなところにも二宮の労働観がよくあらわれていると言えるでしょう。

第2は「儉」です。「儉」とは儉約のことです。「けちん坊」とはちがいます。「儉」は「変」に備えるためのものだと言います。人の一生には、天災や飢饉がいつやってくるかわかりません。そのための蓄えがまったくなかったら、人はみな途方にくれることでしょう。人間が最後まで人としての尊厳を保つためには、緊急時のことも考えていなければならないと言います。二宮はある初夏の頃に食べたナスに秋ナスの味をみて、飢饉の到来を予感します。それで米だけでなくヒエを蒔けと農民たちに助言するのです。倉にヒエを蓄えて何になるかと不満を言う人もありましたが、はたして彼の預言どおり飢饉が到来すると、蓄えておいたそのヒエのおかげで多くの農民が餓死から救われるのです。このように、彼は、将来の「変」のために儉約することの大切さをも説いたのです。

第3は「譲」です。「譲」とは譲るということです。二宮の本を読んで、私がもっとも心を動かされたのは、この「譲る」という思想です。二宮も「この譲るという法則は、わが教法第一の法則である」と自ら語っています。では「譲」とは何か。彼の言葉を引用しましょう。「譲は人道だ。今日の物を明日に譲り、今年の物を来年に譲る道を勤めない者は人にして人ではない。十銭取って十銭使い、二十銭取って二十銭使い、

宵越しの金を持たないというのは鳥獣の道で、人道ではない。鳥獣には今日の物を明日に譲り、今年の物を来年に譲るという道はない。人はそうではない。今日の物を明日に譲り、今年の物を来年に譲り、そのうえ子孫に譲り、他人に譲るという道がある。雇い人となって給金をとり、その半分を使って、半分は将来のために譲り、あるいは田畑を買い、家を建て、倉を建てるのは子孫へ譲るためだ。これは世間の人知らず知らずに行なっているところで、これがすなわち譲道だ。だから一石の者が五斗を譲ることはできがたいことではあるまい。なぜならば自分のための譲だからだ。この譲は教えなくてもできやすい。これより上の譲は教えによらなければできがたい。これより上の譲とは何か。親類・朋友のために譲るのだ。郷里のために譲るのだ。もっとできがたいのは国家のために譲ることだ」

二宮は、人間が鳥や獣とちがう点は、人間に譲るということがあるからだと言います。動物は手から口へであって、譲ることをしません。が、人間は譲る。それが動物と人間の根本的ちがいの点だということです。勤労と儉約だけでは人間はまだまだ利己的です。譲ることを学んで人は初めて社会に貢献し、道徳的存在となるのです。

5. 出費の枠を決める

「出」とはいつでも譲るという行為を無制限に広げるとは現実には不可能です。そんなことをすれば個人の経済は破綻してしまうでしょう。では個人の経済を守りながら譲るにはどうしたらよいか。それには出費の一定の枠が必要です。その枠のことを二宮は「分度」と呼びます。分度の分は天分の分、度は、度合いの度です。自分に与えられた天分を量って、その度合いを知り、その限度の中で生活するということです。

広辞苑にはこう書かれています。「分度とは、二宮尊徳の創始した報徳仕法で、自己の社会的・経済的実力を知り、それに応じて生活の限度を定めることである」彼の改革の根本法則は、この分度を守ることになりました。20万円の給料をもらいながら、毎月25万円を出費する生

活を続けるなら、いずれ借金にあえぎ、貧困に陥るのは目に見えています。が、たとえ10万円の給料でも、9万円で生活すれば、長い年月ではゆとりが生まれ、自分の独立を保つだけでなく、人を助けることさえできるようになるでしょう。実に簡単な原理なのですが、破綻しかかった藩主や領主たちの財政状況を二宮が調べたときわかったのは、この簡単な原理がまったく守られていないことでした。たとえば1200石の家老であれば、120俵の手取りがあるはずですが、ところが高い年貢のために農民たちの労働意欲は失われ、生産はあがらず、わずかに400俵の実収入しかありません。それなのに相変わらず1200石の生活をして、ぜいたくに暮らしている。財政が破綻するのは当然です。

そこで改革を依頼された二宮は、ただちに領主たちの分度を決めました。そしてそれを厳しく守らせることから改革を始めたのです。人びとが不足を訴えるのは、自分の実力以上に背伸びして、身を低くしないからです。それはちょうど湯船に入って、立ったままお湯が足りないと不満を言っている人のようなもので、かめば肩までたっぷりお湯はあるのだと二宮は言うのです。だれでも自分の生活レベルを下げさえすれば、ゆとりが生まれ、そのゆとりで人を助けることができるはずですが、譲ることの実践は、このように分度を守ることを前提としています。自分の分度を守らなければ、ゆとりは生まれず、したがって譲ることもできないのです。

子どもを育てる場合、母親に求められる最初の行為は譲ることでしょう。しかし独身時代のように自分の好きなことをやり続けながら、子どものための時間を持つとも思っても、それは不可能です。それをつくるには、自分の時間をけずるよりほかはない。それが分度を守ることです。分度を守るからゆとりが生まれ、それが他者を潤すものとして分けられてゆくのです。二宮にとって経済生活の最終のゴールは、譲ることにありました。勤労も儉約も分度を守ることみな譲るための準備にすぎなかったのです。私が、こうして二宮尊徳を紹介し、熱心に読む

のは、この「譲る」という彼の思想に強く引かれたからです。

譲るという行為が他の動物には見られず、ただ人間だけが行なうものであるという二宮の言葉は、譲ることについての新しい視点を私に与えてくれました。自分がよりよい人間となるために、私は何としても譲ることの積極的な価値を見いださなければならなかったのだと思います。

最後に、譲るという行為の実際生活への適用について考えてみましょう。二宮は自分の分度を守って余剰をつくり、その余剰を他に譲りましたが、ただばくぜんとそれを人に投げてやったわけではありません。彼は、その余剰を使って人を助ける場合、必ずその人が自立できるように助けました。その人が自立できたら、今度は分度を守るように指導し、それによって余剰が生まれたら、それで他の別の人を助けるように促したのです。人はみなまじめな勤労に励み、かつ質素に生活すれば、必ず余剰を持つに至ります。その余剰を他に還元する。それが人から人へ、村から村へと広がってゆけば、多くの農民が貧困から救われ、ついには社会そのものが救済されるだろう。二宮が描いていたのは、このような実に壮大なビジョンだったのです。同じようなことが自分の人生で実現できないのかと私もひそかに思っています。なるべく簡素な生活をして自分の能力や時間、金銭において余剰を生みだし、その余剰を若者たちの育成に還元する。どこまでそれができるかが、これからの私の人生の課題です。それはイエス・キリストの贖罪の思想の実践だともいえます。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかしもし死んだなら多くの実を結びます。まさにこの原理を、二宮は二宮の言語で表現し、それを実践したのではなかったでしょうか。というのは贖罪は宇宙の原理であり、だれであれ、その原理を適用するなら、必ず自分をも他人をも生かす力となるからです。いったい二宮はこの原理をどのようにして学んだのか。おそらく彼の鋭い自然観察によったものでしょう。



「マーケットプレイス・ミニストリーとは何か？」

「人生のあらゆる分野が ミニストリーの現場」

職場（ビジネス）で主に仕えること



キングダムフアンデーション代表
ジェームス・アーサー



何事においても始まりを見ることは大切な事です。聖書の最初の言葉は、「はじめに神が天と地を創造された。」(創世記の1章1節)から始まります。

私（ジェームス）が神学生の時、恩師のジェラルド・チェスター博士がマーケットプレイスミニストリーの授業の中で、私にこう問いかけました。

「ジェームス、神は万物を創造し、その万物を知っておられるのだから、それらのものを活用するビジネスについて、何か教えてくださいませんか？」これに対し、私は少し戸惑いながらこう答えました。「ええ、神はきっとビジネスについて何かおっしゃることがあるはずです。」

これは神学生であった私が神に仕える場所として、講壇や教会以外の、「この世」でミニストリーを行う「マーケットプレイス・ミニストリー」について初めて学んだ時でした。「マーケットプレイス・ミニストリー」とは何か？更に、聖書を通して神がこのテーマについて何を語っておられるかを学んでいきたいと思います。

西洋世界に於いて教会（とそのメンバー）が、反聖書的な言い回しをしてきたことがいくつかあります。その1つは、「教会は、教会。」「仕事は、仕事。」です。この言い回しは、教会内で教えられ行われている事と、ビジネスの世界で行われていることを区別するものであり、ビジネスと教会は別の世界であると主張するものです。これは間違っ

た考え方です。このような考え方は、ギリシャ哲学の一部である二元論と呼ばれる考え方であり、これは「世俗的な活動（仕事）」は「知的な（霊的な活動）」よりも価値が低いと主張することです。

西洋の基督教社会もこの考え方を反映しており、一般的に言って、「教会の教え」がそのまま「ビジネスの現実世界」に当てはまり役立つものとは考えていません。むしろ反することが多いと考えられています。しかしこれは誤りであり、人を欺くことです！何故なら、神が関心を持たない社会や世界などこの世にないからです。神は教会の世界だけでなく、あらゆるものの、あらゆる領域の主だからです！

「地とそこに満ちているもの。世界とその中に住んでいるもの。それは主のもの。」(詩篇24篇1節)

神様の為に働くことに召されている人たちの中にも、このように悩んでいる人がいるかもしれません。「主よ！私は今、教会では牧師や宣教師などという教職者として働いていませんが、その事があなたの召命を逃してしまっているのではないのでしょうか？」この悩みや問いかけが、どんなにづらい気持ちなのか、私にはよく分かります。妻と私がテキサス州ダラスの聖書学校を卒業した時、私たち家族の召しは、「牧師や聖職者」となるという召しではなく、「ビジネスの世界」に携わるだろ

うというものでした。そして、その召しを受け入れるのに、正直言って私の心に葛藤がありました。しかしその葛藤の中で、私自身が神様から語られたことは、教会の中だけがミニストリーではなく、むしろミニストリーは教会の外にもあるということでした。しかし、このことは、暗黙の了解として、「誰かが教会とその奉仕活動のために資金を産み出し、提供する必要がある。」ということではなく（これは聖書的ではありません！）「人生のあらゆる分野がミニストリー（奉仕活動）」であるという事です。イエス様の御心は、社会のあらゆる分野の中で神の御国を広げる事です。それは教会の中だけでなく、医療、政治、科学、農業、ビジネスなどあらゆる分野に及びます。このことを理解すれば、私たちはキリストの心を捉え、聖書から受けた訓練を、自分が召されたあらゆる分野に活かすことができるのです。教会でフルタイムで働いていないからといって、神の召命を逃したわけではないということを理解してください！神は今！正に貴方を、神様の望む場所に置いてくださっているのです！

こう考えてみてください。牧師は教会員とどれくらいの時間を過ごすでしょうか？日曜日に2時間くらいか、それとも長くても5時間程度かもしれません。しかしそれに対して、あなたは平日にどれくらいの時間を仕事に費やしているでしょうか？週に30時間から40時間でしょうか？あるいはそれ以上でしょうか？このような長い時間で、あなたがその職場で、キリストの愛を表す模範として、共に働く人々にどれほどの影響を与えることができるでしょうか。それは驚くほどです！

あなたはこの事実を今まで見逃して来たかもしれません。でも今からでも遅くはありません。これから必要なのは、自分の召しを受け入れることです。そして、自分の心を変えて、このミニストリーのために整えられること、あるいは訓練されることかもしれません。これは、聖書的な観点からあなたの職業を見つめ直すのに役立つと思います。私たちは人生のあらゆる場面で聖書の教えを適用することを学ぶ必要があります。この学びを通して、クリスチャン人生に於けるミニストリーとは何か？という今までの誤解が解消され、過去の見方が非聖書的であった事に気づくきっかけになることと私は信じています。クリスチャンは人生のどの領域に足を踏み入れても、それはミニストリーであると私は信じています。そして、このような

学びを提供することが聖書学院の存在目的と使命なのです。

CFNJ 聖書学院は、来年の2026年の4月から、マーケットプレイス・ミニストリーの為の学びを行うために準備をすすめています。私の願いは神に召されている全ての人々が、その召しを全うすることが出来ること。そしてその事により神の御国が更に広がることです。皆様の上に神の祝福がありますようにお祈りしています。最後に、CFNJ 聖書学院への変わらぬご支援に心より感謝いたします。

ジェームス・アーサー

新しいコース開講のお知らせ！

CFNJ では2026年度4月から、新しいコース（科目）がスタートします。このコースは、デニス・ピーコック氏の著書「神の方法でビジネスを行う（和訳済み）」をテキストにして、すべての人が、神のみ言葉と御国の原則に従って生きる時、この地上において真の富を築く者（大金持ちになることではなく）となり、神の栄光をこの地上で表し、幸せな人生を送る者とされるための秘訣を学ぶためのものです。

●タイトル／「神の方法でビジネス（家庭、職場、教会での働きを含む）を行う」

●講師／「ブルース・プリントン師」師はこのテーマを長年教えてこられました。通訳は、「ジェラルド・グドル師」です。



ブルース・プリントン師

●講義／4月14日～17日の4日間は1日、2時間、合計8時間の授業。（無料で一般公開されます。続けて更に学びたい方は、次週より週2時間、オンライン講座で学ぶことが可能。

●内容／この学びは2学期間にわたって、全12章からなるテキストを使用。1学期間に6章、2学期間に6章を学び終える予定。（時間内にオンラインで学ぶことが難しい方のためには、都合の良い時間に学び、他のオンライン受講者の方々と共に、毎週一回、夜間に時間を設け、ズームで参加していただき、講師が受講者の方々の様々な質問にお答えする、質疑応答の時間を設ける予定です。）

●お申し込みはこれから随時受け付け、締め切りは2026年3月19日迄です。詳しくは事務局迄。



愛するとりなし手の皆様へ 世界の為の祈り

ジェラルド・グドール



World Prayer Share Letter

チャーリー・カークの死がもたらしたもの

2025年9月10日、ユタバレー大学で講演中のチャーリー・カークが暗殺された。この衝撃的な出来事は瞬く間にアメリカ国内だけでなく全世界に伝わり、大きな波紋を広げた。そして9月21日に行われた追悼記念集会には、20万人もの人々が集結。米国大統領、副大統領、さらに多くの閣僚が列席し、その規模と雰囲気はまるで大伝道集会のようであった。

カークは新生したクリスチャンであり、保守派のリーダー、そしてターニングポイントUSA (TPUSA) の創設者であった。彼は政治や社会において聖書的価値観を強調し、信教の自由を力強く擁護し、また若者たちに対して信仰・家庭・真理を守り抜くよう励まし続けてきた人物である。TPUSAは暗殺前にすでに1800支部を有していたが、その死をきっかけに問い合わせ件数が急増し、追悼集会後には12万件を突破。全米の高校や大学にTPUSAの支部が広がる可能性が現実味を帯びてきた。霊的指導者たちは「前代未聞」と語り、実際に「追悼集会後の三日間に大きな霊的転換が起きた」「この10日間ほど福音を語りやすかったことはない」との声も上

がっている。

一方で、海外や日本ではアメリカに対する否定的な「預言」や見立ても語られる。しかし私はアメリカに2年ほど住み、国内には数え切れないとりなし手が昔も今も存在し、昼も夜も祈りがささげられていることを知っている。

「神は、昼も夜も神に叫び求めている、選ばれた者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか」(ルカ福音書18章7節)とある通り、神はその祈りに答え、今まさにアメリカに働きかけ、多くの魂を悔い改めと救いへ導き、リバイバルを起こしておられるのだ。トランプ大統領は不完全な人物であるが、かつて神がペルシャのキュロス王を用いてご計画を進められたように、彼をも用いてアメリカだけでなく全世界に福音宣教の黄金時代を築こうとしているのではないだろうか。

チャーリー・カークの死をきっかけとして起きているこのリバイバルの波が日本を含む全世界へと広がり、やがて多くの魂の大収穫につながることを祈ろう！

文責 グドール ジェラルド



CFNJ 講義・ ゲストスピーカー

●ゲストスピーカーの講義は、どなたでも聴講できます。聴講は無料です。(席上献金あり。一部授業は有料)又、各コースの授業も聴講可能です。(有料)詳しくは学院事務局迄お問い合わせください。

2025 年度 3 学期 授業カリキュラム スケジュール

無料体験入学

実施中!

平常授業のある3日間 (3泊4日)

(2026年1月13日(火)~3月6日(金)迄)

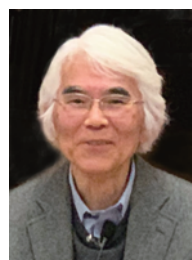
2025 年・2026 年
10 月・1 月・3 月



岩崎義幸師

日野キリスト教会牧師
(東京都)

10/20~24 1・2時間目
25日は同窓生会



米村英二師

学院顧問・大津キリスト教会牧師(熊本県)

2026 1/19~23 1・2時間目



有賀喜一師

学院顧問・伝道者・
神学校教師

3/2~5 1・2時間目
6日は卒業式

1・2年コース

(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM9:15~10:10	旧約聖書 概論Ⅲ 鍛冶川利文	テモテ書 長沢 克己	旧約聖書 概論Ⅲ 鍛冶川利文	聖書の夫婦の学び 鍛冶川 紀子	教会開拓 訓練 伊藤仁
2 AM10:30~11:25	イエスキリスト の信仰 金聖圭	聖書の自己像 三浦 雅範	マタイの福音書Ⅱ 神田 満	ガラテヤ書2 田中 博	終末論 松原 望
3 AM11:35~12:30					

選択科目

午後 PM13:30~15:30	ドラムクラス 仲宗根昇平	タンバリン クラス上級 伊藤 雄基 ピアノクラス 伊藤 雄基	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
---------------------	-----------------	--	------------	------------------------

2025年9月1日(月)午前8時~ この日、二学期からの入学式が行われました。これからの学びの歩みの為に祈りをよろしくお願い致します!

祝、入学



短期コース(札幌市)
「石井 芙由」(ふゆ)

ハレルヤ! 主の御名をほめたたえます。主の選びと召しによって、このCFNJ学院に呼ばれたことに感謝します。そして愛する兄弟姉妹とともに聖書の学びと実践の機会をもつことができることを喜ばしく思います。これからの日本の収穫の時のための働き手として整えられ、みことばの真理の悟りと祈りをもって主に仕える者となることができるよう、私の思いを遥かに超えて働かれ、油注いでくださる神様に期待します。

随時願書受付中!

cfnj.com

新入生募集中!

2026年1月・4月入学、
各学期からの入学可。

- アルプスコース (牧師・リーダー養成)
- 1・2年本科コース (1学期だけの短期で学ぶ事も可能です)

「そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」
(マタイ9章37節～38節)

無料体験入学
実施中!

平常授業のある3日間 (3泊4日)

※詳しくは事務局まで。



CFNJ 北海道地区

「同窓生会」開催のお知らせ!

CFNJ 卒業生、修了生の皆さん、お変わりありませんか? 10月に入り秋たけなわとなりました。同窓生会の日程が近づいてきましたが、メ切の日を10月20日迄に延長します。ご家族やご友人を誘って、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

- 日程/2025年10月25日(土) (正午~15時迄)
- 会費/昼食代一人 2000円
- 会場/CFNJホール 石狩市花川北6条5丁目157

「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」ヘブル10章25節



※お申込み、お問い合わせは、お早めに学院事務局迄お知らせください。cfnjbibleschool@gmail.com
☎0133-74-1341 担当/濱田めぐみ・岡田雄基

予告! CFNJ聖書学院 ドラマクラス



ライオンと魔女と衣装だんす

2025 11/29 (土)

入場無料

14:00~16:00



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

- HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
- e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

